

ロールモデル創出で好事例を横展開

「生成AI活用実践ガイド」実効性検証プロジェクト 実証事業キックオフ



実証事業に向け抱負を語る塩澤社長

中小企業のデジタルシフト・DX推進委員会（委員長＝吉澤和弘特別顧問・NTTドコモ相談役、浜直樹特別顧問・富士フイルムビジネスイノベシ

ョン社長・CEO）は、広く中小企業へ生成AI活用を浸透させるために、5月に発行した「中小企業のための『生成AI』活用実践ガイド」の考え方を基に、生成AI活用のロールモデル創出に向けた実証事業を開始した。

実証事業では、まず効果を実証する対象企業を数社選定。事前アンケートや勉強会の実施を踏まえて、AIを組み込む業務や効果測定基準を定めた上で、各社の具体的業務に生成AIを実装する。実際に生成AIを業務で活用した効果は、定量的・定性的に測定さ

れ、業務プロセスやテンプレートなど、「生成AI活用の型」の抽出に取り組んでいく。

7月8日には、効果実証の対象企業1社目となったシオザワにて、キックオフミーティングが行われた。同委員会の顧問を務める塩澤好久社長（東商特別顧問）は、「経営理念にもある通り、お客様に高い満足度を提供するため、AIをツールの一つとして活用し、生産性向上に努めていきたい。そのためこの実証事業を成功させ、次のフェーズに進んでいきたい」と抱負

を語った。

実証事業で最初に行われる効果実証は、7月以降に段階的に実施。10月以降に開催を予定するワークショップでは、実証事業で抽出した「生成AI活用の型」を活かして、より多くの企業に生成AI実装の機会を提供する。こうした取り組みの結果、生み出された優良事例の横展開を図るとともに、中小企業がAIを活用する際に顕在化する多様なニーズに対して、「デジタル化・DX相談窓口」を活用した伴走支援も行う事業スキームとなっている。

同委員会では一連の実証事業を通じ、東商発の「生成AI活用ロールモデル」を創出し、中小企業における生成AI活用を加速させ、稼ぐ力の強化を図る。